

<b>Title</b>	第9回ピア・スーパービジョンを終えて(第9回ピア・スーパービジョン)
<b>Author(s)</b>	大島, 知子
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.1, 2012.9 : 28-28
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3988">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3988</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

## 第9回ピア・スーパービジョンを終えて 大島知子

今回は4名の卒業生に報告していただきました。報告内容は先に記されている通りです。参加できなかった方もこの記録を通して、報告者の実践、考えを共有していただくことができたと思います。読んでいただいてどのように感じられたでしょうか。当日のピア・スーパービジョンでは、卒業生の報告後、参加者が少数のグループにわかれ、感想や悩み、興味のあること等について語り合いました。お互いに刺激を受け、有意義な意見交換の場になったと思います。その後、先生方よりコメント、総括をいただきました。先生方のあたたかな言葉から、報告者は自分の実践がいまどのような状況にあるのか、今後どのように進めていけばよいのか、振り返りと自信を持つことができたと思います。夜からの懇親会では多くの先生方にご出席いただき、福祉や教育現場の現状や各人の悩み、近況報告、学生時代の思い出話等、さまざまな話題で盛り上がりました。

さて、今回9回目を終えたピア・スーパービジョンですが、企画メンバーの悩みは、いま職場で戸惑い、迷い、揺れている本当に苦しんでいる方にどうしたら参加していただけるか、ということです。スーパービジョンセンターのチラシには「福祉実践に夢と希望を持ち続けるために」、「福祉現場における孤立感と燃えつきを防ぐために」と書かれています。これは、社会福祉の現場では夢と希望を持ち続けることが困難で、そのために孤立し燃えつきで離職する人が少なくないことをあらわしていると思います。私自身、人とかかわることが求められる福祉職の厳しさを実感しています。ピア・スーパービジョンで悩みを解決することはできなくても、参加者が「話を聞いて自分だけの悩みではないと気が付いた」とか「話



してスッキリした」と思えたり、あるいは明日からのヒントを得られたりして、力を取り戻す機会になれば、続けていく意義があると思います。忙しく、また元気の出ないときに参加することは大きな力を要すると思いますが、ぜひ一度参加していただきたいと思います。また燃えつきる前の予防として利用していただくことも良いと思います。これから卒業し福祉の現場に進む方には卒業生がこのような企画を行っていることを覚えておいただき、活用していただけたらと思います。もちろん、苦しい時期を乗り越えた方や元気に活躍している方、情報交換したい方の参加も歓迎いたします。また、福祉職から離れている方や聖学院大学卒業生以外の方の参加も歓迎しております。

(おおしま・ともこ 地域包括支援センター勤務、社会福祉士、2002年度聖学院大学人間福祉学科卒業)